ちょ〜イタ
〜素晴らしき超能力人生〜

お久しぶりのご挨拶

和泉由紀：みなさん、お久しぶりです。和泉由紀です。お元気でしたか？

葛西ツトム：初めまして、と挨拶しなければならない人も多いかな？　このコーナーはライアーソフトの第１作『ちょ〜イタ』を応援し、語り伝えていくとこです。

牧野つばさ：アタシたち、絶滅危惧種だったのか……。

ツトム：うーん、そろそろ在庫がなくなるぞ〜ハラショーって、広報のやんばるさんが踊っていたのは事実だ。

由紀：たいへん！　みなさ〜ん、買うなら今がチャンスですね！

つばさ：まだ初回特典もついてるしな！

由紀＆つばさ：お求めはお近くのパソコンショップなどで、ぜひ！

ツトム：まー、宣伝もこんなとこだよな。

それは、こんなゲームだ

つばさ：でもよく考えたら、どんなゲームかわからないのに、買ってくれって頼むのも変な話だよな。

ツトム：商売とはそういうもんだ。

由紀：いいのかなぁ、それで。

つばさ：よくない！

ツトム：だそうだ。じゃ、由紀、適当に説明を。

由紀：はーい。『ちょ〜イタ 素晴らしき超能力人生』は、その名の通り、超能力でいろいろイタズラするためのゲームです。

つばさ：事故で超能力に目覚めたツトムが、天から得たその力を使って、悪のレイプチームを倒すため、初デートを中断してまで、正義のために戦うゲームだ！

由紀：……ではありません。透視能力に目覚めたツトムさんが、初デートから、彼女を透視能力でのぞきまくったり、テレパシーでエッチに操っちゃったりするゲームです。……自分で紹介すると、すごいイヤなゲームですね……。

ツトム：イタズラの半分の被害者だからなぁ。

由紀：わたしって……。

つばさ：あたしって……。

わかりやすい舞台裏の話

ツトム：というわけで、最大のウリは画面の端っこに存在する透視ボタンなわけだ。



【これが透視ボタン】

由紀：これを押すと画面の中を自由に透視できます。すみずみまで……。



【このイベントＣＧが……】

↓



【こんな感じに……】

↓



【自在に透視できる】

つばさ：あたしは対超能力バリアを持ってるから大丈夫だ。

由紀：ずるい〜。

ツトム：しかし、この透視が実はえらく曲者だったんだ。

つばさ：よく考えれば、企画段階でわかってもよかったんだけど、作業してみるまで誰も気づかなかったんだよね。

由紀：何かと言いますと、下着、裸と二段階に透視されるんですが、おかげで、一つのシーンに、ＣＧが三枚必要になってしまったんです。

つばさ：つまり、作業量３倍。

由紀：まず、原画のミハイル・Ｇ氏が呆然とし、ＣＧチームが愕然としてました。

ツトム：ほんとに、どうして誰も気づかなかったんだろうな。

由紀：おかげで、今でもこのゲームはＣＧさん達のトラウマさんになっています。

つばさ：続編はないかなぁ。

ツトム：むずかしいかもな。しかし！　透視無くしてなんの『ちょ〜イタ』か！　立ち上がれ、全国の透視ファンよ！　あの感動を再び味わおうではないか！　ぜがひでも、『ちょ〜イタ２』を！

由紀：……わたし、あんまり積極的に賛成できません……。

つばさ：だから、超能力を悪用するなっての！

ツトム：この際、少数意見は黙殺させてもらおう。諸君、ペンをとれ！　キャミからブラをへて肋骨まで、驚異の５段階透視、とか、画面内のあらゆるものをマウスでグリグリ移動できる何でもＰＫなどのアイデアを募集する！　君達のたぎるイタズラ魂をライアーまで送ってきてくれ。採用者には、もれなく『ちょ〜イタ２』をプレゼント……。

つばさ：できるかぁ！

由紀：と、とりあえず次号でもコーナーはありますので、ご意見、感想、何でも投稿、お待ちしてます。それじゃ、５月まで、さようなら〜。

お便りの宛先は、奥付の住所、またはメールで『ＦＣ・ちょ〜イタ』係まで。〆切は３／３１（必着）です。